

令和4年度 名桜大学公開講座報告書

講座名	ハブ対策講座
申請者氏名	新垣裕治
講師名 (所属機関)	寺田考紀 (沖縄県衛生環境研究所 衛生科学班 (ハブ担当) 主任研究員)
日時	令和4年6月16日 (木) 18:15~19:45
講座の概要 及び所感	<p>今回も昨年から続くコロナ禍で対面とオンライン (Zoom) のハイブリッドでの講座を実施した。対面ではマスクの着用やアルコールでの手指消毒等の対策を行い実施した。講師の寺田氏には、本学の生涯学習センターより講座を配信して頂いた。</p> <p>講座では、沖縄のヘビ、ハブの毒と被害、ハブの特徴と生態、及びハブ対策のことについて話して頂いた。前半では、外来種の台湾ハブの名護における分布の変遷を捕獲調査結果を基に説明をして頂いた。毎年分布は拡大し、現状としては、名護市内に広く分布していることが示された。東海岸の辺野古地区でも生息が確認されていた。外来種では台湾ハブ以外にペットで飼われている珍しいヘビも捕獲されていることや、これら外来種ヘビ類が在来の生態系に与える影響についての説明があった。</p> <p>講座では、ハブの特徴と習性を沖縄在来のアカマタやリュウキュウアオヘビ等無毒蛇との比較、また、ヒメハブ等の有毒蛇類との比較しながら説明して頂いた。沖縄のハブ対策の現状として、ハブネットの設置、屋敷周辺の石垣をセメント塞ぐことや、ネットで覆うこと等の環境整備が重要であることや市町村でのハブ捕獲器の貸し出し制度やハブノック・ネオ (蛇類の刺殺スプレー) の紹介をして頂いた。</p> <p>沖縄のヘビ類、ハブ類の現状、移入ヘビ類の現状を理解できた、環境教育の観点から非常に有益な公開講座であった。</p>
参加人数	33名